

令和4年度 施策評価シート

基本目標		区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	540	多様な主体が参加する区政のしくみをつくる
施策	541	情報を戦略的に発信し、多様な主体と共有する
施策の目標	区民やすみだに関わる人に、まちへの愛着が生まれ、すみだでの暮らしや活動に誇りをもっています。さらに、すみだを愛する人がシティプロモーションの担い手となって情報発信し、「すみだの魅力」に共感が生まれています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「自分にとって必要な区の情報が入手できている」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					60					70
実績	52.9				53.3					
指標名	墨田区のホームページ訪問者数									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					20,000,000					22,000,000
実績	15,904,068				35,000,000					

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
ホームページや広報紙、フェイスブックなど、様々な媒体を活用した相互情報発信をはじめ、友好交流都市との交流事業を通じて、住民同士の交流が図られています。	R1	806
	R2	4,190
	R3	5,971

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	これまで行ってきた交流実績を基礎として、引き続き連携を強化していく必要があるため。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
交流都市である3自治体との連携事業を継続的に展開するため。また、北海道十勝地域との関係人口を創出・拡大するため。	
【今後の具体的な方針】	
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面での交流が困難となっている中、様々な形の交流を検討する必要がある。また、地方創生の枠組みの中で、都内自治体として何を目的として都市交流を進めていくのか、改めて定義し直し、今後の都市交流の進め方について、方向性を定める必要がある。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
						評価対象年度
1	国内都市との交流推進	5,971	7,037	13,008	55	改善・見直し
					40	令和3年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

令和4年度 事務事業評価シート

施策	541	情報を戦略的に発信し、多様な主体と共有する	部内優先順位
事業名	国内都市との交流推進		1
目的	友好交流締結都市を初めとする国内都市との交流を推進することで、区民に様々な体験をする機会を提供するとともに、防災協定、広報協定など、様々な分野での協力関係が構築されている。また、特別区長会が推進する「特別区全国連携プロジェクト」において都市と地方の双方が共存共栄する新たな関係づくりが構築されている。		主管課・係（担当）
			文化芸術振興課 都市交流・国際担当 03-5608-1459
対象者	各友好都市の自治体 各友好都市の区民・町民・市民等 北海道十勝地域（18町村）と台東区及び墨田区の住民		
根拠法令 関連計画	墨田区都市交流推進委員会設置要綱、地域再生計画、墨田区総合戦略		
実施基準	区独自基準	実施方法	直営 人員体制・委託先 常勤職員2
事業内容	<p>【事業概要】</p> <p>友好交流締結都市を初めとする国内都市との交流事業の実施</p> <p>1 「友好都市交流展」の実施……長野県小布施町・山形県鶴岡市・栃木県鹿沼市からPRパネルの掲出・地元の名産品などの販売PR（～R1まで：すみだまち処 R4：調整中）</p> <p>2 長野県小布施町と墨田区民との交流事業の実施。（都市農村交流）【春季1回・秋季1回】</p> <p>3 長野県小布施町の栗ガ丘小学校6年生の体験学習</p> <p>4 長野県小布施町で行われる、「六斎市」に「墨田区伝統工芸保存会」が出展し地元町民との交流と伝統工芸のPR活動（令和2～4年度）特別区全国連携プロジェクトにより、地域再生を図るための事業を実施</p> <p>・江戸の伝統を活かした十勝産品による新しい食文化の創出事業（たいとう・すみだ・十勝ウィーク、たいとう・すみだ特産品づくり）</p> <p>・十勝・東京スポーツ・アウトドア交流拡大事業（モニタリングツアー）</p> <p>・北海道十勝地域と東京たいとう・すみだ戦略的交流事業（交流委員会の設置・運営、交流戦略決定、新規事業の検討等）</p>		
経過	開始年度	平成4年	終了予定
	<p>【長野県小布施町】平成5年3月、葛飾北斎に関する3つの自治体又は美術館（墨田区・小布施町・津和野町）で構成する北斎三館協議会が設立されたことをきっかけに墨田区と交流が始まり、平成8年5月1日「墨田区と小布施町との友好協力に関する協定」、平成8年7月22日「防災相互応援協定」締結</p> <p>【山形県鶴岡市（旧・朝日村）】県人会が両国会堂を使用していた縁で、区の子供達の交流を呼びかけ。（墨田区少年団体連合会が窓口）。平成9年7月14日「友好協定」締結</p> <p>【栃木県鹿沼市（旧・栗野町）】昭和53年「あわの自然学園」開設、昭和55年7月15日「友好協力事業協定」締結（栗野町と鹿沼市合併を機に友好協定解消）、平成24年10月13日「友好交流・協力に関する協定」締結</p> <p>【特別区全国連携プロジェクト】令和元年度 地域再生計画の策定及び認定（3カ年）。令和2年度「十勝食材フェア」「2Wayクッキング教室」実施。令和3年度「たいとう・すみだ 十勝ウィーク（十勝食材フェア、2Wayクッキング、十勝特産品フェア）」「オンラインモニタリングツアー」実施。</p>		
議会質問 の状況	<p>（令和3年3月予算特別委員会）</p> <p>特別区全国連携プロジェクトにおける区の単独事業について、どのような考えで進められているのか</p> <p>（答弁）北海道芽室町と食をテーマに交流を行っている。今回、区長会を通じたプロジェクトも、この芽室町との交流も、食がテーマになっており、令和元年に区内の食育団体と、この担当職員が芽室町で交流を行った。その中でワークショップも行って、大きく四つの今後の交流事業の検討を始めている。芽室町と墨田区が今後どのような交流ができるか調整している。</p>		
その他 特記事項	<p>（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等）</p> <p>令和4年5月（春季）11月（秋季）長野県小布施町と墨田区民との交流事業の実施（都市農村交流） 春季中止</p> <p>令和4年9月 長野県小布施町の栗ガ丘小学校6年生の体験学習</p> <p>令和4年9月 十勝・東京スポーツ・アウトドア交流事業</p> <p>令和4年11～12月 たいとう・すみだ・十勝ウィークの実施</p>		

予算・決算額推移（単位：千円）		29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
予算現額（事業費）		1,140	1,144	1,148	4,561	6,450	6,736
A.決算額（令和4年度は見込み）		853	824	806	4,190	5,971	6,736
財源	国	0	0	0	1,691	2,553	2,574
	都	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	2,493	3,000	3,000
一般財源		853	824	806	6	418	1,162
執行率（％）		74.8%	72.0%	70.2%	91.9%	92.6%	100.0%
B.人コスト		/	3,937	3,495	7,058	7,037	/
総事業決算額（A+B）		853	4,761	4,301	11,248	13,008	/
予算書P（令和4年度）	P119 3-3	執行実績報告書P（令和3年度）			P53		

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和2年度（決算）			令和3年度（決算）			令和4年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
旅費	管内旅費等	3	旅費	管内旅費等	53	旅費	管内旅費等	23
需用費	消耗品費等	0	需用費	消耗品費等	6	需用費	消耗品費等	145
役務費	通信運搬料等	3	役務費	通信運搬料等	4	役務費	通信運搬料等	6
使用料及び賃借料	使用料及び賃借料	0	使用料及び賃借料	使用料及び賃借料	0	使用料及び賃借料	使用料及び賃借料	556
負担金補助及び交付金	負担金等	4,184	負担金補助及び交付金	負担金等	5,908	負担金補助及び交付金	負担金等	6,006

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	国内友好都市との交流回数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		5	R7	目標	5	5	5	5
				実績	5	5	5	5
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	5	5	5	5	5	5
	実績	1	1					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	国内友好都市の交流回数を増やすことより、内容を充実させ、住民同士の交流を実現させることが大切と考える。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	連携自治体累計数				単位	自治体
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
55		R3	目標					
			実績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		55	55					
実績	40	40						
指標の選定理由及び目標値の理由								
墨田区総合戦略で、地方との交流や提携を強化するための重要業績評価指標(KPI)として目標を示している。 第2次総合戦略の策定予定は令和3年度末								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年度は事業の中止を余儀なくされた。今後も交流事業を通じた区民相互の交流を深めるためにも、感染拡大を防ぐための対策等を検討していく必要がある。

課題・問題点
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面での交流が困難となっている中、オンラインの活用等、様々な形の交流を検討することが、今後の課題となる。 また、地方創生の枠組みの中で、都内自治体としてどんな都市交流を進めていくのか、具体策を精査していく必要がある。

補助金名	特別区全国連携プロジェクト事業補助金			主管課・係（担当）		
根拠法令				文化芸術振興課 都市交流・国際担当		
補助概要	特別区全国連携プロジェクト事業にて令和2年度から本格的に連携事業を開始した北海道十勝地域の人や資源との交流を育む事業を、両地域の民間レベルで取り組むことにより、交流が推進される。			03-5608-1459		
目的	特別区長会が推進する「特別区全国連携プロジェクト」において都市と地方の双方が共存共栄する新たな関係づくりが構築されている。					
対象	連携実績がある食育関連団体					
基準	区独自基準					
補助条件	以下の要件を満たした団体 <ul style="list-style-type: none"> ・食育及び食を通じた交流事業について、実績が認められること ・当該地域とのつながり・縁があること ・事業を遂行する能力があると認められること 					
経過	開始年度	令和2年度		終了予定		
	令和元年度	特別区全国連携プロジェクト事業実施に向けたプレ事業実施（保健計画課）				
	令和2年度	令和元年度に実施したワークショップで提案のあった5つの取り組みアイデアから、4つの企画に整理。「関係人口」「交流人口」を育むモデル事業の企画検討を行った。				
	令和3年度	墨田区と芽室町が構築してきた関係者の協働により、食を通じて人と人、地域と地域のつながりを育む「子どもワークショップ」を実施した。				
議会質問の状況	（令和3年予算特別委員会） 特別区全国連携プロジェクトにおける区の単独事業について、どのような考えで進められているのか（答弁）：北海道芽室町と食をテーマに交流を行っている。今回、区長会を通じたプロジェクトも、この芽室町との交流も、食がテーマになっており、令和元年に区内の食育団体と、この担当職員が芽室町で交流を行った。その中でワークショップも行って、大きく四つの今後の交流事業の検討を始めている。芽室町と墨田区が今後どのような交流ができるか調整している。					
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 時期未定 墨田区・北海道芽室町との関係人口創出事業の企画提案（予定）					

予算・決算額推移（千円）		29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
予算額（事業費）		0	0	0	801	801	801
決算額（令和4年度は見込み）		0	0	0	801	801	801
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		0	0	0	801	801	801
執行率（％）		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	100.0%	100.0%

補助金の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	特別区全国連携プロジェクト事業実績自治体数				単 位	自治体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1			
		実績	1	1				
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	多様な人々(生産者・食育実践者など)の交流を実現させることが大切と考える。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部オンラインを活用した交流を行った。今後も交流事業を通じた区民相互の交流を深めるためにも、オンラインの活用等、感染拡大を防ぐための対策等を検討していく必要がある。

課題・問題点
新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、オンラインの活用等、様々な形の交流も踏まえた検討をすることが、今後の課題となる。